

再 評 価 調 査 書

整理番号	2
担当部局	土木部道路建設課

1 事業概要

(1)事業名	地方道路整備事業	(2)名称	主要地方道 竜ヶ崎阿見線 主要地方道 美浦栄線
(3)事業主体	茨城県	(4)箇所名	牛久市久野町～龍ヶ崎市八代町
(5)採択年度	2018年度(平成30年度)	(6)完成予定年度	2028年度(令和10年度)
(7)事業目的	・竜ヶ崎阿見線は茨城県龍ヶ崎市と茨城県阿見町を結ぶ路線であり、また、美浦栄線は茨城県美浦村と千葉県栄町を結ぶ路線であり、それぞれ圏央道阿見東インターチェンジへのアクセス道路として、重要な路線である。 ・現道の慢性的な渋滞や狭隘区間の解消を図り、地域の安全性向上に寄与するとともに、圏央道阿見東インターチェンジへのアクセス向上による地域振興や産業競争力強化を目的とし、牛久市久野町～龍ヶ崎市八代町までの約6.5kmのバイパス整備を行うものである。		
(8)事業内容	・事業延長 L=6,500m ・計画幅員 W=23.5～16.5m(4車線) ・用地買収、改良工事、舗装工事、橋梁工事		

2 再評価の理由

(1)再評価の理由	再評価(完成年度変更)	(2)当初完成予定	2024年度(令和6年度)
(3)未着工・事業が長期間要している理由	-		
(4)前回指摘事項に対する対応状況(再々評価の場合)	委員会の意見	対応状況	
	-	-	

3 事業計画の変更

(1)完成年度の変更	2024年度(令和6年度) → 2028年度(令和10年度) 4年延長 【理由】延長が長く、地権者が多いことから用地取得に想定を超えるに日数を要している。また、埋蔵文化財包蔵地が多数点在し、その調査および調整に不測の日数を要していることから、完成年度を4年延長する。
(2)事業内容の変更	【理由】-
(3)事業費の変更	- 【理由】-

4 進捗状況と今後の見通し

(1)事業進捗状況	全体	前年度	前年度まで	進捗率
事業量(m)	6,500	0	0	0.0%
事業費	工事費	14,252	560	11.1%
	用地買収補償費	3,150	800	57.2%
	計(百万円)	17,402	1,360	19.5%
(2)関連事業の進捗状況	・圏央道阿見東インターチェンジが2007年(平成19年)3月に供用 ・2021年(令和3年)3月に竜ヶ崎潮来線～一般県道八代庄兵衛新田線区間(L=0.6km)を供用 ・圏央道4車線化 2025～2026年度(令和7～8年度)予定			
(3)今後の見通し	工事	用地等		
	まとまった用地が確保でき、埋蔵文化財調査が完了した箇所から工事を推進する。	工事着手に向けて、用地取得を進める。		

5 評価内容

(1)事業の必要性	現道の一部区間は、交通量も多く、線形、見通しが悪いため大型車のすれ違い時の安全に支障を来しているほか、円滑な交通に支障がある。 今後、圏央道の4車線化に伴い、現道や周辺道路の交通量の増加が見込まれており、また、つくばの里工業団地へのアクセス道路でもあるためバイパスを整備し、車両交通の安全を確保するとともに現道の交通混雑緩和を図る必要がある。					
	社会情勢等の変化に関する指標1	計画時の状況	現時点での状況	社会情勢等の変化に関する指標2	計画時の状況	現時点での状況
	竜ヶ崎阿見線 24時間交通量(龍ヶ崎市泉町)	16,229台/日(H27センサス)	17,338台/日(R3センサス)	美浦栄線 24時間交通量(牛久市久野町)	5,179台/日(H27センサス)	5,365台/日(R3センサス)
(2)事業の有効性	バイパスの整備により、円滑な交通が確保され、県南地域への物流の効率化や工業団地等への企業立地の促進が期待できるとともに、龍ヶ崎市街地へ連絡する現道などの交通混雑の緩和も図られる。 また、南北に並行する土浦竜ヶ崎線の交通混雑の緩和も図られ、牛久市街地から龍ヶ崎市街地までの交通時間短縮にも寄与することが期待される。					
	効果予測に関する指標1	事業なし	事業あり	効果予測に関する指標2	事業なし	事業あり
	牛久市久野町～龍ヶ崎市八代町の(5.4km)通過時間(R22)	9分	7分	牛久阿見IC～印西市役所の(20km)通過時間(R22)	39分	38分
	効果算定要因に関する指標1	事業なし	事業あり	効果算定要因に関する指標2	事業なし	事業あり
	計画道路将来交通量(R22)	-	14,200台/日	現道道路将来交通量(R22)	16,300台/日	14,800台/日
(3)事業の効率性	ア)主な効果(B) ①当路線の整備により牛久市久野町～龍ヶ崎市八代町およびその周辺道路において、走行時間の短縮が図られる。(27,043百万円)走行費の減少が図られる。(461百万円)市街地を通過する交通の縮減により安全が確保され交通事故の減少が期待される。(323百万円) 計 27,827百万円 ②両バイパスの整備により、南北に並行する土浦竜ヶ崎線の交通混雑の緩和が図られる。 ③阿見東ICとつくばの里工業団地のアクセス向上により、物流機能の強化が図られる。 イ)主な費用(C)※現在価値化:令和5年度 ①事業費 14,911百万円 ②維持管理費 448百万円 計 15,359百万円 主な効果のうち貨幣化が可能な①について事業の効率性を分析した結果は以下のとおりである。 参考となる指標 B/C=1.8					
(4)地元の意向	牛久市及び龍ヶ崎市から、現道区間の慢性的な渋滞や狭隘区間における安全性の確保のため、早期整備の強い要望を受けている。					
(5)コスト削減や代替案立案の可能性	土量の過不足について、事業内で土量バランスを考慮した整備を計画し、必要に応じて近傍で実施している他事業と工事間流用を調整することにより、コスト削減を図る。					

6 対応方針

圏央道阿見東ICへのアクセス向上、都市地域間のネットワーク強化、広域的な幹線道路の整備などのため、事業推進を図る。

7 再評価委員会の意見

継続することが妥当である。

8 委員会の意見を踏まえた対応

委員会の指摘を踏まえ、現計画に沿って早期完成を目指し、事業を進める。

